

2-5. 自然環境

1) 台峯緑地の自然環境の概要

① 植 物

■多様な植物群落により構成されているが、二次林が中心で自然林は少なく、今後遷移が進む

台峯緑地には、多様な植物群落がモザイク状に分布しているが、かつては薪炭林として利用され、所々にスギ・ヒノキの植林地が見られるなど二次林が中心であり、この状態で人為的な維持を行わなければヤブコウジースダジイ群集などの自然植生に遷移していくと考えられる。

これらの樹林地に対して、アズマネザサなどが繁茂し草地化した箇所が多く見られ、数箇所には耕作が続けられている農地と耕作放棄された農地が見られる。

■湿地を中心に特徴的な植生が発達している

台峯の谷戸から倉久保の谷戸にかけての湿地は上中流部にヨシ群落が発達し、ハンノキ群落が点在している。下流部はオギ群落が広がっているが、植物遺体の堆積による湿地から草地への遷移途中の植生である。

これらは放棄された水田跡地が遷移していったものであり、乾湿の差により、生育する植物が住み分けられ多様な植物の生育環境を提供しているが、清水谷戸の湿地では水田放棄後に乾燥化が進むなどにより大部分が荒地化している。

② 動 物

■多様な生態系が保たれている

貴重種であり生態系の上位種であるオオタカ（聞取りによる確認）やフクロウ等が確認され、水辺にもカワセミやゲンジボタル、ホトケドジョウ等の多くの貴重な動物が確認されていることから、多様な植物相の上に、多様な動物相が保たれていることがわかる。

■水路、ため池、湿地部で多様な種、貴重種が見られる

台峯緑地の貴重種等の動物の確認された分布を見ると、台峯緑地の生態系の豊かさに、谷戸底部の水路、ため池、湿地部が重要な役割を果たしていることが分かる。

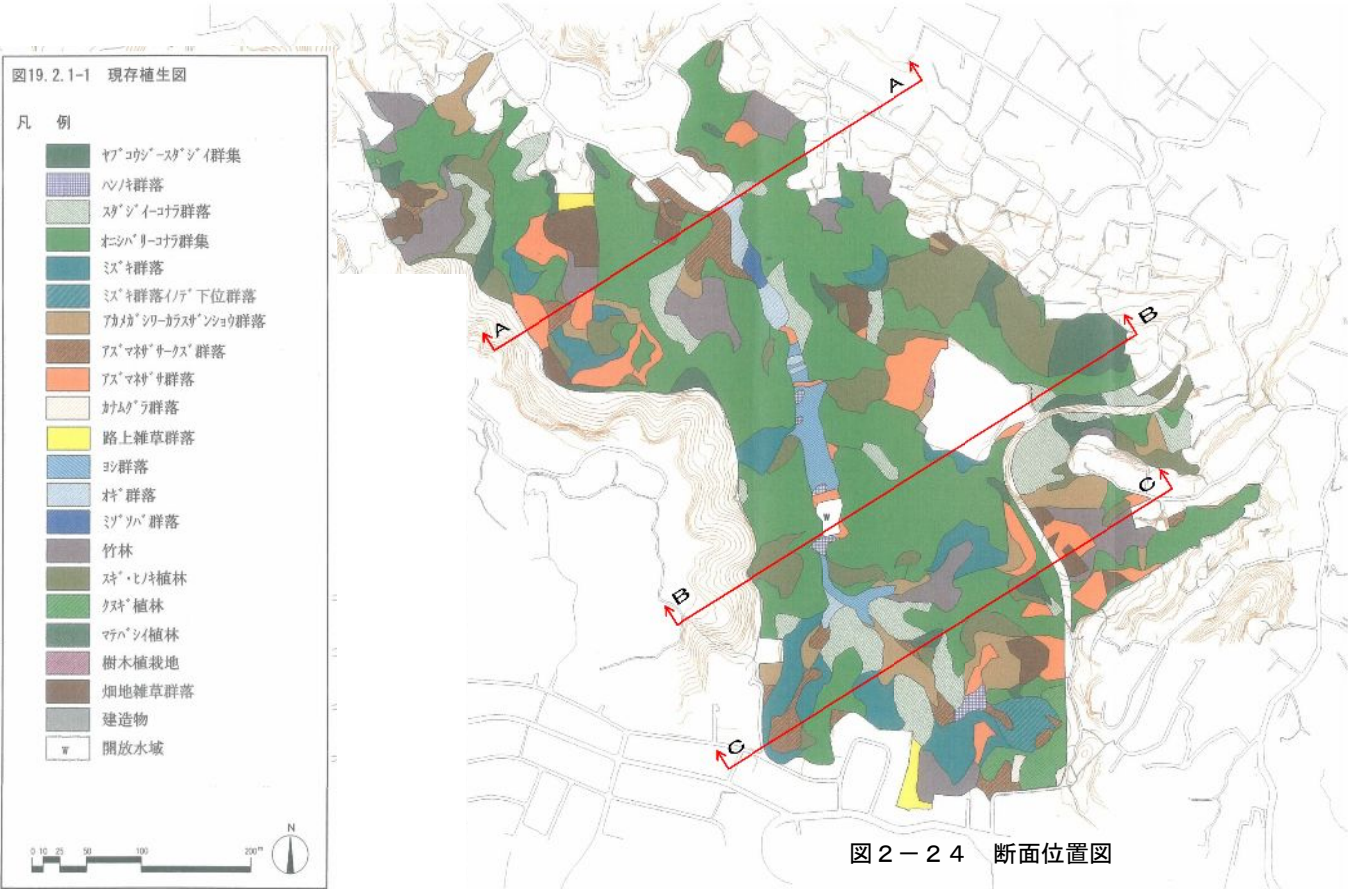


図 2-24 断面位置図

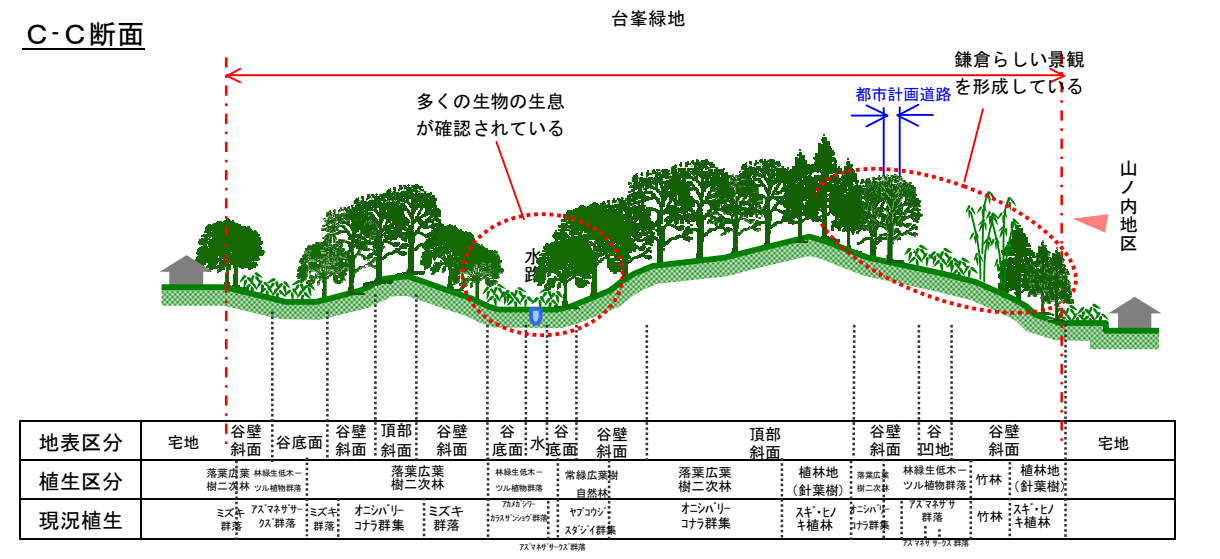
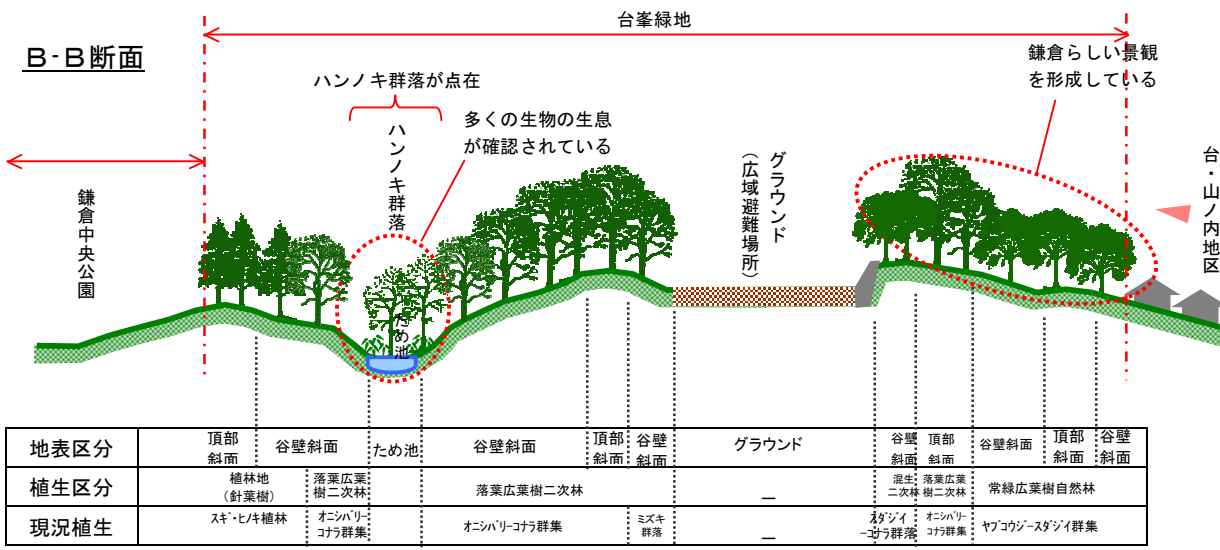
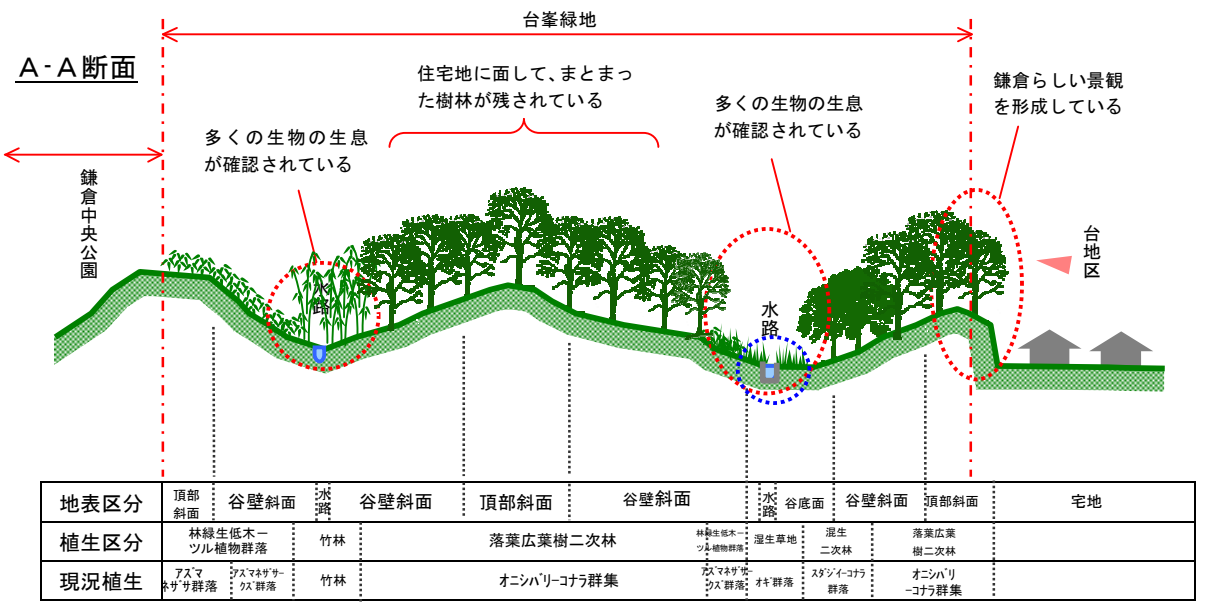


図 2-25 自然環境の断面図

2) 植生

①植生区分図

台峯緑地の植生については「平成 15 年度 自然環境調査 鎌倉市」より植生区分図を引用すると右図に見るように、台峯緑地では 20 種類程度の多様な群落がパッチ状に分布し、広がりのあるまとまった規模の樹林地を構成している。

台峯緑地の植生はオシバ・リコウ群集が多く、台峯の谷戸の中央から底部では谷戸の両側の殆どがオシバ・リコウ群集で、台峯の谷戸上部にはスダジイ・コナラ群落、ミズキ群落/下位群落、アカカシ・カスガ・ソウの群落が混在している。

全体的にはスギ・ヒノキ植林、竹林も比較的多く見られるが、潜在植生と考えられるヤブ・コナラ・スダジイ群集は所々に散見されるが、少なくなっており、アズマナツメ・ササ群落が多くなっていることが目立つ。

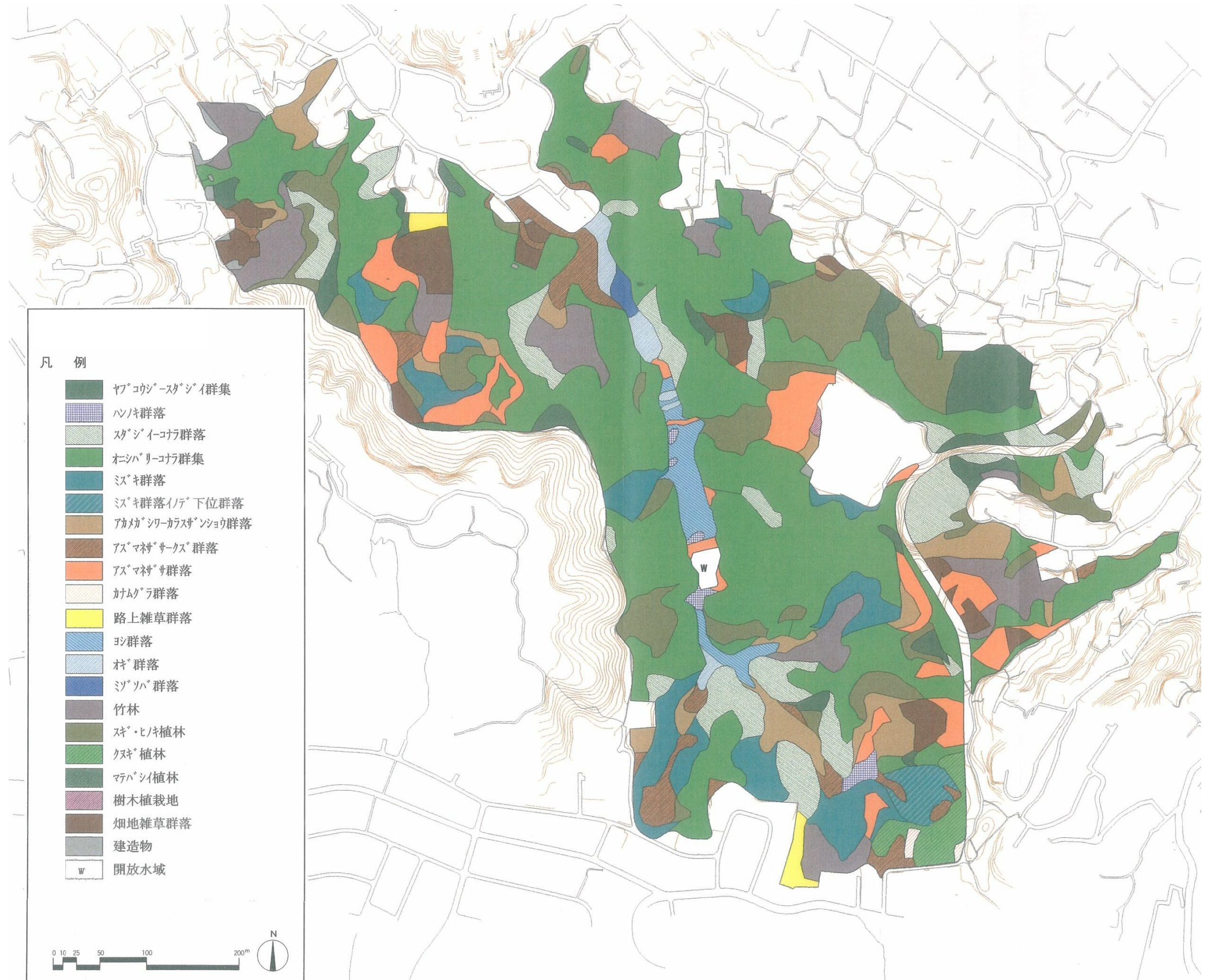


図 2-26 現況植生図

②植生群落毎の特性

植生群落毎の特性		
樹林	ヤブコウジ-スタジイ群集	ヤブコウジ-スタジイ群集が台峯緑地の極相林であるが、自然に近い構成種で分布しているところは少なく、パッチ状に点在しており面積的にも狭い。
	オシバ-リコウ群集 スタジイ-コウ群落	代償植生であるオシバ-リコウ群集が台峯緑地の斜面全体にかけて最も広く分布しているが、薪炭林としての用途の廃止により萌芽更新もされず、また林床にアズマザサ等が繁茂し、種の多様性の低い群落が多くなっている。
	ミズキ群落	ミズキ群落が谷戸の南側枝状の谷頭凹地を中心に急斜面地などにパッチ状に点在しているが、全体の分布から見ると少ない。
	アカカシ-ワカサギ-ソヨウ群落	谷戸奥部の谷頭部の土壌が不安定な立地に比較的まとまってアカカシ-ワカサギ-ソヨウ群落が分布する。4～9mの群落高でマント群落を形成している場所も多い。
	竹林	竹林は斜面下部に植栽されたものと考えられ、面積的には小さい。
	スギ・ヒノキ植林	林業施業の名残としてスギ・ヒノキ植林がパッチ状に点在するが、南東部にはまとまって分布している。間伐等の管理がされていないため、暗い林床になっている。
	クヌギ植林 マテバシ植林 ミズキ群落イデ下位群落	クヌギ植林、マテバシ植林、ミズキ群落イデ下位単位がそれぞれ1箇所ずつ見られた。
水辺	ハンノキ群落	谷戸底部の溜池周辺にハンノキ群落が数箇所見られるがそれぞれ面積が小さい。ヨシ群落にも単木状に生育するハンノキが見られる。
	ヨシ群落	谷戸底部の水田管理放棄地の過湿環境にはヨシ群落が広く分布し、ミゾソバ、セリが多く混在している。
	オギ群落 ミゾソバ群落	面積的にはそれ程広くないが、谷戸部下部の水田放棄地の一部にオギ群落、ミゾソバ群落が分布している。
草地	アズマザサ-サクス群落	耕作放棄地や伐採跡地、林縁部にはアズマザサ-サクス群落が点在し、植被率が極めて高い。
	アズマザサ群落 カムグウ群落	小規模なパッチ状に分布しているが、アズマザサ群落の植被率が非常に高く、林床が真暗で種多様性の低い群落となっている
	畑地雑草群落	東側尾根付近に数箇所ある畑地は放置するとカムグウ群落、クヌギ群落を経て樹林に遷移していくと推定される。



ヤブコウジ-スタジイ群集



オシバ-リコウ群集



ミズキ群落



アカカシ-ワカサギ-ソヨウ群落



竹林



スギ・ヒノキ植林



ミズキ群落イデ下位群落



ハンノキ群落



ヨシ群落



ミゾソバ群落



アズマザサ-サクス群落



畑地雑草群落

表 2－2 植生群落毎の特性

3) 水路及び湿地

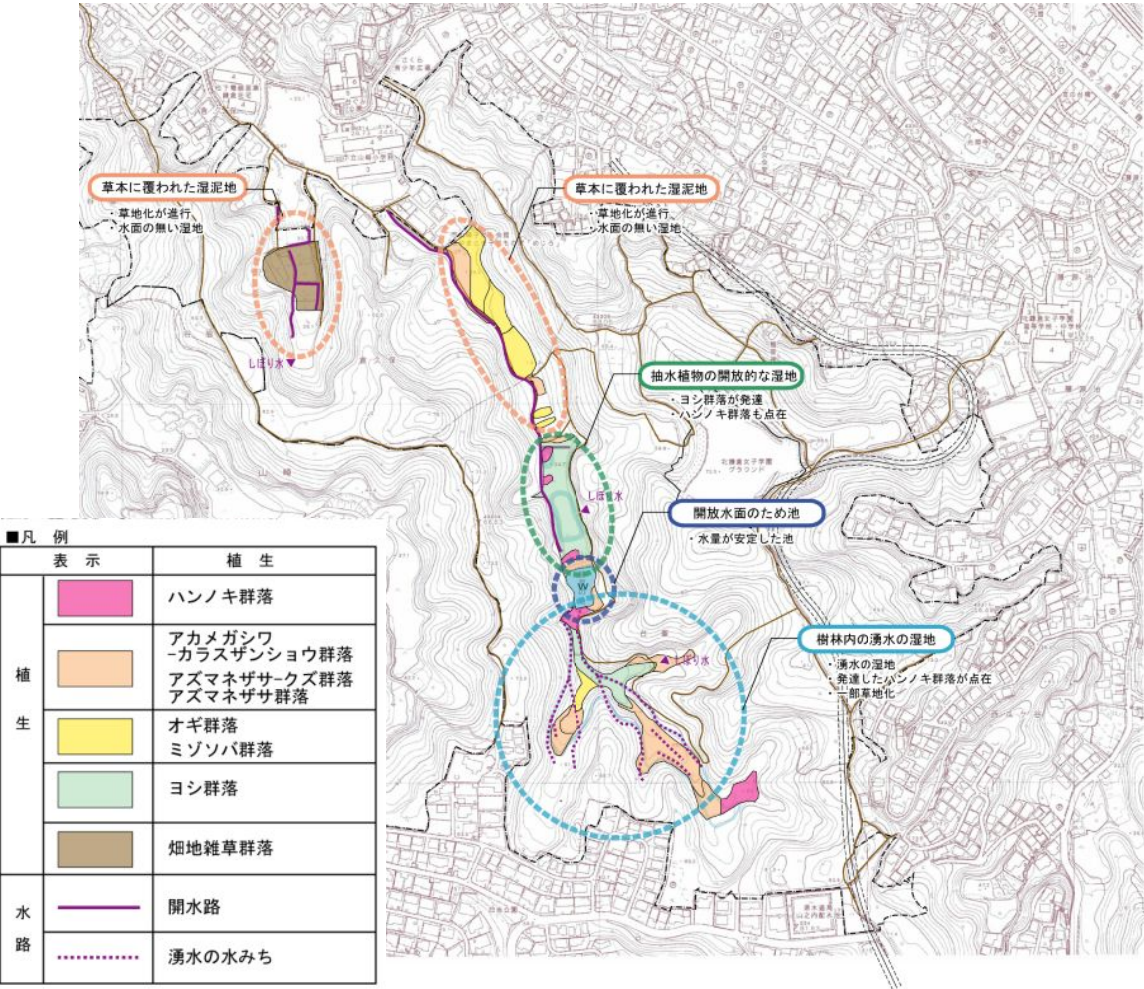
前述の植生区分図及び現地調査から、台峯緑地の湿地は4つの湿地環境が形成されていることがわかる。

湿地はもともと水田利用されていたものが放棄され湿地化したものであるが、長年の放棄で枯れた植物が堆積し、現在は草地化が進行している状況にあり、上流から下流に行く程、草地の状態に近い湿地となっている。

	湿地の特性	
台 峯 の 谷 戸	上流部 ：樹林内の湧水の湿地	【水路】なし、湧水の水みち 【湿地状態】谷戸の奥から染み出る湧水が網目状の流れをつくり湿地環境を形成している。水田放棄地であるが、一部は枯草や落ち葉が堆積し、草地化が進行している。ため池上流の谷戸の最奥部にはハンノキ群落が発達している。 【植生】ヨシ群落、ハンノキ群落、アカメガシワ-カラスザンショウ群落、アズマネザサ群落、オギ群落
	ため池 ：開放水面の木陰の池	【水路】－ 【湿地状態】ため池の水量は通年で安定しており、常に開放水面を保っている。池の周囲には林縁植生が発達し、水面に覆いかぶさるように繁茂している。 【植生】－
倉 久 保 の 谷 戸	中流部 ：抽水植物の開放的な湿地	【水路】素掘りの水路 【湿地状態】湧水口付近等を中心にヨシ群落が発達している。一部にハンノキ群落が点在している。 【植生】ヨシ群落、ハンノキ群落
	最下流部 ：草本に覆われた湿泥地	【水路】素掘りの水路 【湿地の状態】枯れたヨシ等が堆積し、草地化、樹林化が進んでいる。 【植生】オギ群落、ミゾソバ群落、アズマネザサ群落、
清 水 谷 戸	：草本に覆われた湿泥地	【水路】素掘りの水路 【湿地の状態】放棄された水田にヨシ等が堆積し、草地化が進行している。 【植生】畑地雑草群落

表 2－3 湿地の特性

図 2－27 湿地環境の特性

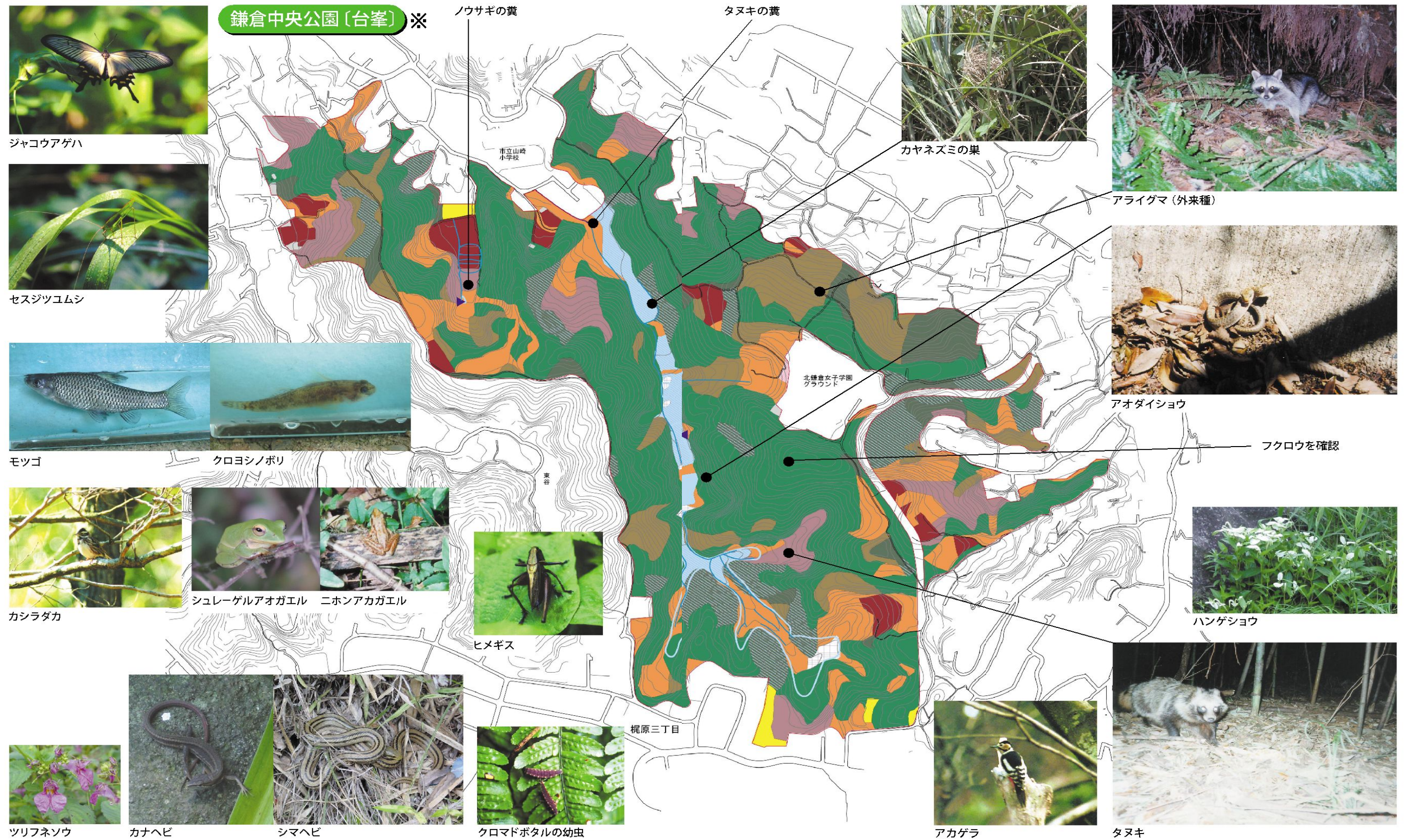


4) 動物

台峯緑地では、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物に多くの種が確認され、高次消費者であるワウが確認されることからさまざまな動物相にとって良好な生息環境であることが分かる。

また、その他にも神奈川県レッドデータブックに記載されている多くの貴重種が多数見られ、貴重な自然環境が残されていることが分かる。

多様な動物種の生息環境は多様な環境基盤の組み合わせでなりたっていることから、谷戸の複雑な地形、多様な群落からなる植生、多様な水環境からなる台峯緑地ならではの特徴がもたらす自然環境の多様さ、豊かさといえる。



※ 図中の「鎌倉中央公園〔台峯〕」は、出典の鎌倉市自然環境調査概要版の表示である。

図2-28 台峯緑地に見られる主な動物

出典：「鎌倉市自然環境調査 概要版」平成15年より

動物の分布状況（「平成 15 年度 自然環境調査 鎌倉市」を参照）

台峯緑地における動物の分布は、清水谷戸、倉久保の谷戸、台峯の谷戸の谷戸部に多く見られ、水路、池、湿地の水環境とそこに育まれる多様な植生が大きな役割を果たしていることが分かる。

調査確認種数

● 哺乳類：ノウサギ、カヤネズミ、タヌキ他 6科7種

★ 鳥 類：フクロウ他 21科38種

▲ 爬虫類：4科6種

■ 両生類：4科6種

▼ 昆虫類：127科453種

◆ 魚 類：モツゴ、ホトケドジョウ、クロヨシノボリ 3科3種

底生動物：25科30種

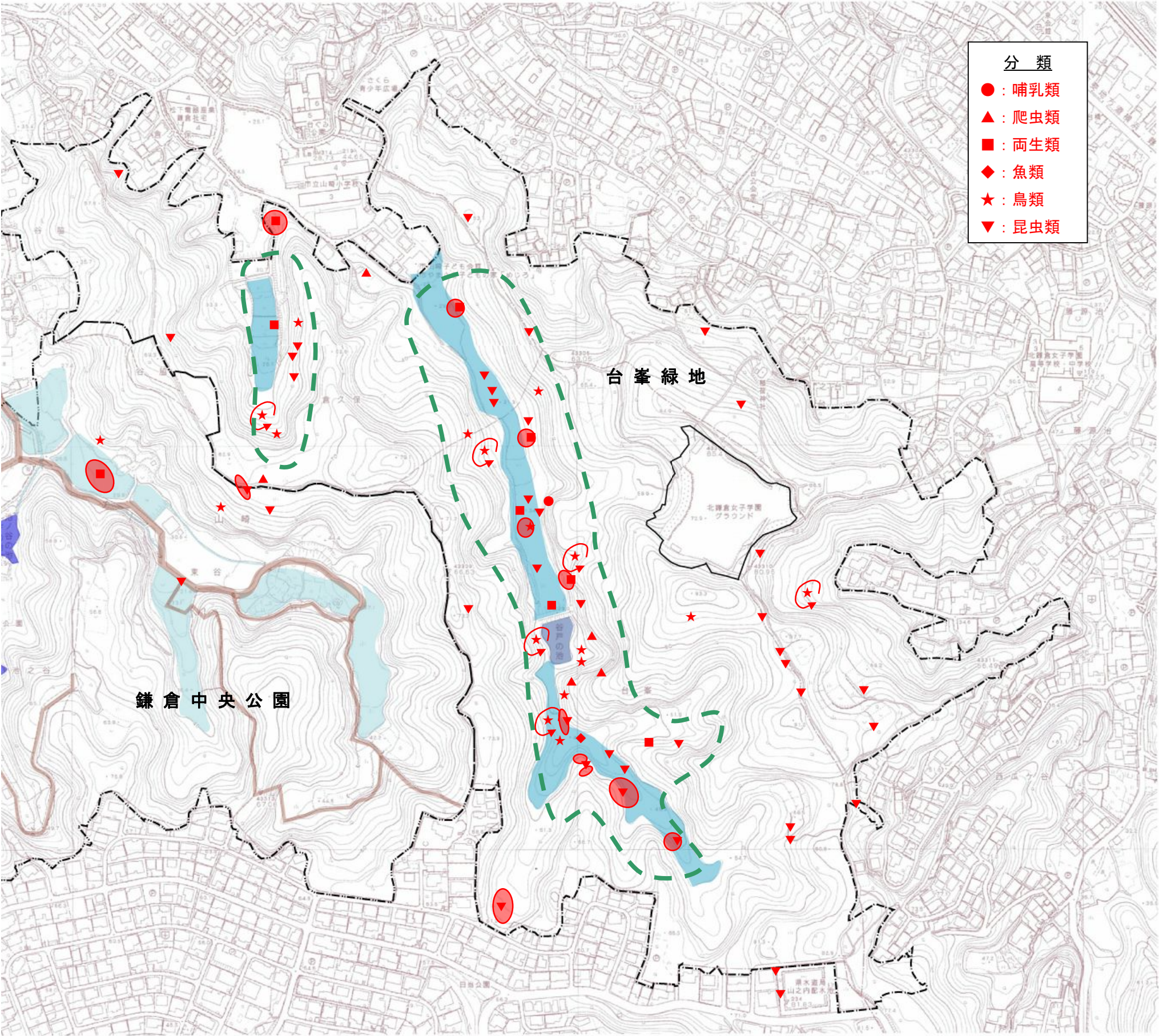


図 2-29 動物の分布状況
参照：「平成 15 年度 自然環境調査 鎌倉市」